

調査名	分 析	実施結果 (正答率)			
		区		自 校	
区 学 力 調 査 全 学 年	<p>○正答率では、各学年昨年度の平均を上回る学年がほとんどである。</p> <p>○1年生 (+1.6) と6年生 (+1.1) の算数は区の正答率を上回ることができた。</p> <p>○2年～5年は区の正答率を下回っている。特に5年の算数は、-10.0 と大きく下回り低い結果となっている。</p> <p>○国語では、区の正答率を全学年上回ることができなかった。しかし、3年4年生は区の正答率に近い数値であった。</p> <p>○2年生と5年生は、国語、算数ともに区の正答率を大きく下回っている。また4年の算数も区を大きく下回っている。</p>	国語	算数	国語	算数
		1年		1年	
		78.6	84.0	76.7	85.6
		2年		2年	
		86.9	88.1	82.0	84.3
		3年		3年	
		77.2	76.4	77.1	75.9
		4年		4年	
64.1	76.1	63.2	70.1		
5年		5年			
71.1	69.0	63.1	59.0		
6年		6年			
69.0	71.3	62.3	72.4		
都 学 力 調 査 小 5 中 2	<p>○すべての教科において都の正答率を下回っている。</p> <p>○国語 A 問題 都よりも 4.3 ポイント低い。</p> <p>○国語の意欲・関心・態度は 90% と高い数値となっているが、技能、知識・理解、読む の正答率が低い。</p> <p>○国語 B 問題 都よりも 0.1 ポイント高い。</p> <p>○読み解く力に関する内容で取り出す力と解決する力が都を上回った。</p> <p>○算数 A 問題教科の内容全てにおいて 3～8 ポイント下回った。</p> <p>○算数 B 問題読み解く力に関する内容全てにおいて 3～9 ポイント下回った。</p>	都		自 校	
		国語			
		62.5		58.7	-3.8
		社会			
		56.8		49.4	-7.4
算数					
63.7		55.6	-8.1		
理科					
67.3		64.0	-3.3		
全 国 学 力 調 査 小 6 中 3	<p>○国語 A, B 算数 A は全国の正答率を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語 A の知識理解については、話す・聞く・読む力がついてきた。 ・B の活用力 ・読書活動の充実を図り活用力をつけていく。 <p>○算数 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と計算、量と測定が全国正答率を下回った。 <p>○算数 B と理科においては全国の正答率を上回っている。</p>	全 国		自 校	
		国語 A			
		70.0		69.8	-0.2
		国語 B			
		65.4		60.8	-4.6
		算数 A			
75.2		74.9	-0.3		
算数 B					
45.0		46.7	+1.7		
理科					
60.8		63.1	+2.3		

<平成 28 年度の具体的方策>

具体的な方策

○落ち着いたある学習態度で学ぶ授業規律の確立と徹底を図る。

○補充学習の時間確保と家庭学習の習慣化

・「あらかわ寺子屋」事業を毎週金曜日に実施し、基礎学力の定着を図りながら基礎基本の学力を向上させていく。

・東京ベーシックドリルを活用し、学びの習熟を図る。

・放課後の補習時間を短時間でも確保し、継続して指導を行っていく。

・家庭学習の習慣化を図るために、課題を計画的に与える。

・月の初めの 1 週間を「家庭学習がんばろう週間」とし、家庭での学習の充実を図る。

○校内研究の充実

・学校学ぶ意欲、調べる楽しさを味わえる楽しい授業づくりを図る研究を行っていく。

・特に、問題の意図を読み取る力が付くよう図書館の利活用を通しての研究を充実させ、読書活動、調べ学習に力を入れて指導していく。(年間授業研究 6 回・講演 2 回を予定)

○算数習熟度別学習及び「算数大好き」による T T 指導

・プレテストによる適切なグループ編成を行い、段階に応じた指導(4～5展開)を行い学力の向上を図る。(低学年では、算数大好き先生を活用した授業天下を行い低位の引き上げを行う。)

・全国、都の学力向上のための調査や区の学力向上のための調査では、無回答 0 を目指す。

○電子黒板やスマートボード、タブレットパソコンの活用(コンテンツ、ソフトの活用)し、ICT 教育の充実を図る。

・校内では、日常的に学年での研修会を行い指導力向上の工夫、手法を情報交換し活用・実践を通して学び合う。

・授業で活用できるコンテンツの紹介と研修を月に 1 回実施し授業で利用し検証していく。

○教育活動全体において言語活動を重視し、言葉を通して的確に理解し、論理的に考え、表現する能力を育てるとともに、学校図書館を活用した授業と読書活動を推進する。

○朝遊びの時間を設けて、「早寝、早起き、朝ごはん」を奨励し、基本的な生活習慣を安定させ、学力向上の基盤をつくる。